

平成29年度自己評価結果公表シート

学校法人 三愛学園

1、 本園の教育目標

理 念：

生まれながらにして持っている人間の善意を目覚めさせ、幼児それぞれの尊い素質と個性を温く培い、そして人間が成長し、生きていく為、社会に調和した人格の芽を導き育てることが本園の目的であり理想であります。社会に受け入れられない人格は本人自身の不幸は言うまでもありませんが、それはまた社会の不幸であるといえます。人間の個性と素質といった全人格の基礎が幼児期に方向づけられることを思うとき、幼児教育の重要性を痛感するものであります。

本園は三愛学園と称しますが、三愛とは「自愛、互愛、博愛」のことであり、自分自身を愛することの重要な意味を悟り、それから出発して他人を、また社会を広く愛するに至る人間社会における愛の調和を訴え、実践する意味であります。人類愛こそは世の中を美しく、和やかにする基盤であると確信いたし、「自愛、互愛、博愛」を本園の幼児教育の基本方針に掲げております。本園はこの重要な使命を自覚し、この理想に向かって教育の一端に貢献する所存であります。

目 標：

幼児期は特に心身の発育の盛んな時期です。この幼児期に心情、意欲、態度、生活習慣など、生涯人格形成の基礎が培われる重要な時期であることを踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針を、そして上記の理念を基本として、下記の本園の「園訓」に基づいて「教育目標」を設定し、乳幼児の視点に立ち保育者や保護者、地域の方々の愛情、温かい見守りの中で、次世代を担う子供達が伸びやかに健やかに、その素晴らしい素質を伸ばすための土台をしっかりと作ってゆくのが本園教育と養育の大きな役割であると考えております。さらに、社会の役割、保護者の多様なニーズに対応し、地域の子育ち、親育ちの為の子育て支援の拠点として、地域や保護者との連携を図りながら、愛情と喜びをもつ子育て支援の輪を広げ、努めることを目指します。

本園の

「園 訓」 …… 自愛・互愛・博愛

「教育目標」 …… ☆ 健康教育、情操教育、創造教育を通して、
お子さまの個性をはぐくみます。

☆ 集団生活の中から、自分を知り、他人を知り、そして自然を知る。

☆ のびやかに、そして、すこやかに。

自 愛 = 健康教育…健やかに、たくましく

互 愛 = 情操教育…心がはずみ、

博 愛 = 創造教育…やるき、目の輝き

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園内研修の更なる充実。学園全体で0～5歳時の発達をふまえ、集団づくり、絵画指導、劇あそび等を職員で学び、実践に活かす。
- ・創立40周年の節を刻む本年、夏まつり、運動会、作品展、生活発表会等で40周年の意義をとどめる。
- ・就労支援・子育て支援は子どものことを真ん中に考えて取り組む。
- ・地域に貢献し、小学校との連携もしっかりとっていく。

3、 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・学園一体となって行事をすすめる	・各行事の担当者を各部門から選出し、係を中心に行事をすすめている。
・就労支援の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労されている母親が増えてきているのでPTAの活動などにも見直し、保護者への負担軽減をはかっている。 ・預かり保育も子どもへの負担がかからないよう無理なく楽しめるものに工夫している。
・子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放の日に学園集会を行い、体操・ダンス・ゲーム等を地域の親子と一緒に楽しめている。 ・さくらんぼひろば(1・3歳)をよちよちひろば(1・2歳)、さくらんぼひろば(2・3歳)に分けて、中身を子ども達の発達に合わせて取り組んでいる。随時受け入れをし、利用しやすくしている。親同士が子育ての不安や悩みを話し合い、交流している。
・働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩室を設置し、休憩を取りながら職員同士の交流、休憩時間の確保をしている。 ・前期・後期の最低2回全職員のヒアリングを行い、問題解決に結びつけている。
・個々の力量アップとチームワークづくり。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士・保育研究の一人者であるスーパーバイザーに指導を受けた。また、日々の実践の中で子どもに寄り添い、発達を促している。事例を学び合い、今後学んだことを実践に繋げていこうと話合っている。 ・外部の研修にも積極的に参加し、それを職員内で共有し、教育・保育の質向上に努めている。

4、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・園内研修・外部の研修に参加し、学んだことを土台に作品展や生活発表会を見直し、子どもの成長・発達を踏まえたものになり、子どもを中心に楽しんで取り組めた。創立40周年の夏まつりでは、地域の方々を招待し、交流ができた。学園一体となって行事を進めることができた。
- ・就労支援の面では働く母親が増え、預かり保育を利用しやすくなるようにまた、子ども達の健康や気持ちのサポートなどに留意してきた。
- ・小学校との連携では小学校に5歳児が招待してもらい交流ができた。また、引継ぎが必要な子は各学校を訪問し、担当者に引継ぎを行う事ができ、よりスムーズな就学ができた。

5、 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
・0～5歳を見通した学園としての保育・教育の充実。	・2歳～3歳への連携を密にし、こども園から幼稚園へスムーズに進級できるようにしていく。
・保護者の教育力を高め、共に子ども達の成長発達を促進していく。	・PTAと共済で子育て講座を企画していく。(年齢に応じてかわりを学んでもらいながら望ましい親子関係を築けるように)
・地域にひらかれた子育て支援の拠点となるように、地域や小学校との連携をはかっていく。	・子育て支援のしくみ(年齢別)の充実と園庭開放、夏まつり、育児相談も掲示板に掲示し、地域の方々が利用しやすくする。 ・小学校との交流(避難訓練や小学生との交流会)をもち、スムーズに入学し、小学校になじめるよう連携をはかる。

6、 学校関係者の評価

子供たちの秘めた可能性を見極め、最大限に引き出して、それを褒めて伸ばしてゆく。毎日、接する保護者の見えない所に着目し、子供一人一人に合せた教育を実行して頂いたと、卒園生の保護者として感じます。「三愛学園で良かった」と周りの保護者からも未だに聞こえてきます。

園の理念もぶれず、昨今の様々な保護者からのニーズに柔軟に対応しつつ、従来の良さを損なわないで子供たちに接して頂いている園スタッフの姿も気持ちがよく、とても喜ばしい感情が芽生える程の対応で言う事はありません。40年超続いている理由はよくわかる気がします。地域住民としてもこれからもいい連携を取り、続けて行ってほしいと切に願うところです。

P T A代表

7、 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。